

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第5週 (2/1-2/7) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		5週	4週	3週	2週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	2/1-2/7	1/25-1/31	1/18-1/24	1/11-1/17	1/25-1/31
			5週	4週	3週	2週	4週
小児科	RSウイルス感染症		0.33	0.33	0.44	0.17	0.32
	咽頭結膜熱		0.06	0.17	0.33	0.11	0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	3.78	2.83	3.56	2.89	3.78
	感染性胃腸炎		7.00	8.28	10.33	10.17	7.96
	水痘		0.39	0.61	0.94	0.67	0.57
	手足口病		0.00	0.00	0.00	0.06	0.04
	伝染性紅斑		0.39	0.83	1.00	0.44	0.71
	突発性発しん		0.39	0.33	0.78	1.06	0.31
	百日咳		0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
	ヘルパンギーナ		0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
	流行性耳下腺炎		0.44	0.61	0.39	0.83	1.02
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎★★	46.21	30.18	15.68	5.86	29.16
眼科	急性出血性結膜炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎	○	1.20	1.00	0.40	0.20	0.58
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎		3.00	0.00	0.00	3.00	0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0.00	0.00	0.00	2.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	女性	30歳代	病原体の検出
結核	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出	薬剤耐性アシネト	男性	60歳代	菌の検出及び 薬剤耐性の確認
結核	女性	20歳代	画像診断等	バクテラ感染症			
結核	女性	50歳代	IGRA検査等				
梅毒	男性	10歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

・第5週は、結核4件(23)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(1)、梅毒1件(1)、薬剤耐性アシネトバクテラ感染症1件(1)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第5週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し3.78となった。過去10年の同時期と比べると多い。

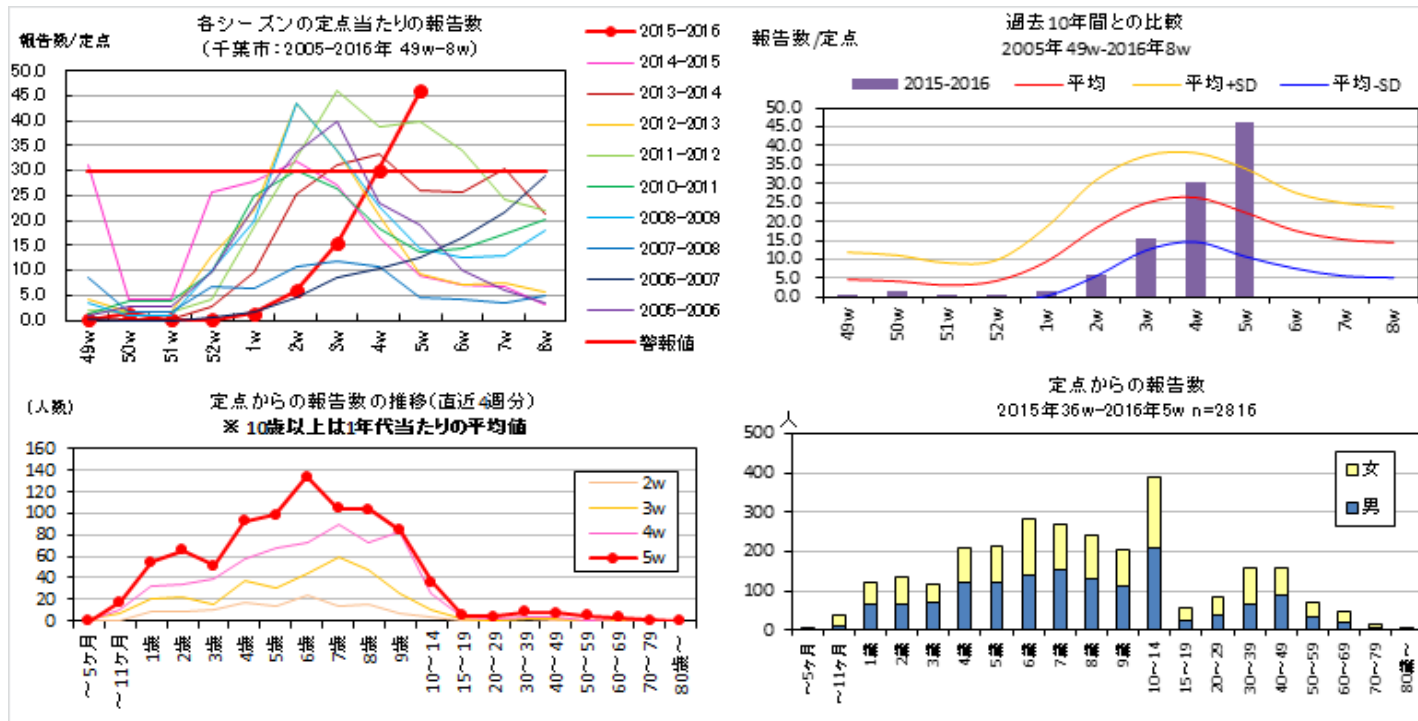
<インフルエンザ> 前週より増加し46.21となった。流行発生警報開始基準値を上回ったまま。過去10年の同時期と比べると最多。

<流行性角結膜炎> 前週より増加し1.20となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

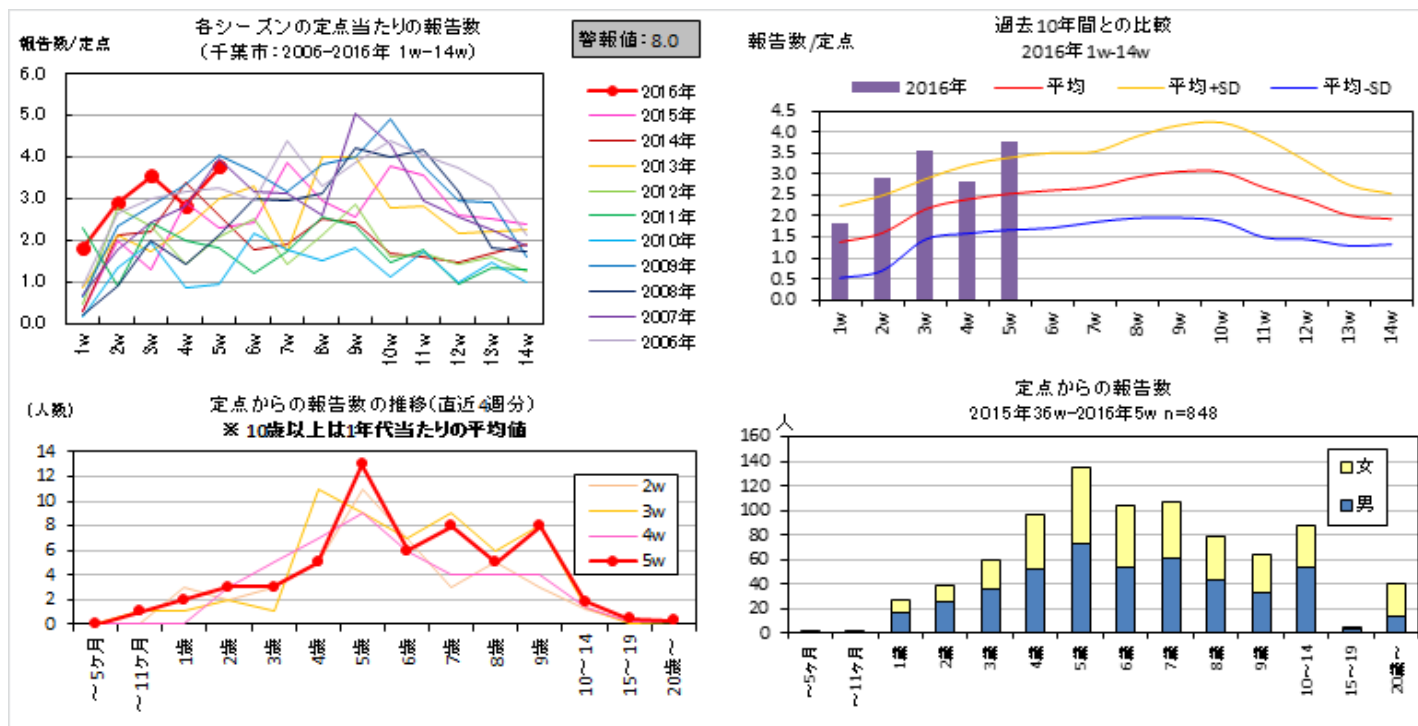
＜インフルエンザ＞

全国レベルの第4週は、過去9年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、新潟県、沖縄県、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2016年第5週は前週より更に増加し46.21となり、過去10年の同時期と比べて最多となりました。流行発生警報開始基準値(30.0/定点)は上回ったままです。区別の発生状況は、中央区(65.5/定点)で最多で同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは8歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第5週までの累積報告数(n=2816)によると、性別では男性が52.6%(1481名)、女性が47.4%(1335名)で、年齢階級別では6歳(10.01%:282名)、7歳(9.62%:271名)、8歳(8.52%:240名)の順に多くっており、20歳未満は全体の80.9%、10歳未満は全体の65.2%となっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第4週は、過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、山形県、鳥取県、静岡県順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2016年第5週は前週から増加し3.78となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(8.25/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第5週までの累積報告数(n=848)によると、性別では男性が55.4%(470名)、女性が44.6%(378名)で、年齢階級別では5歳(15.9%:135名)、7歳(12.6%:107名)、6歳(12.3%:104名)の順で多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルの第4週は、過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、宮崎県、長崎県、大分県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市の2016年第5週は前週から増加し1.20となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、花見川区(2.0/定点)で最多で、同区の60歳代から70歳代で発生報告がありました。2016年第1週から第5週までの累積報告数(n=18)によると、性別では男女同数で共に9名で、年齢階級別では30歳代(27.8%:5名)、40歳代及び60歳代(共に16.7%:3名)の順で多くなっています。

